

平成 25 年度事業報告

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

1) 平成 25 年度助成事業について

(1) 若手美術家の在外研修に対する助成

① 募集（募集期間、平成 24 年 10 月 1 日～平成 24 年 11 月 12 日）

- ア. 美術系大学、美術館等約 400 施設に周知方を依頼した。
- イ. 文化機関、画廊等約 70 箇所に周知方を依頼した。
- ウ. 新聞、Web 媒体、美術専門誌約 200 社に募集掲載を依頼した。

② 選考・審査

応募は、181 件であった。

- ア. 次の評価要素等を勘案し、分担審査によって第一段審査、次いで全選考委員によって第二段審査を行った。
 - a. 発想の独創性
 - b. 研修計画の実現性
 - c. 美術界への貢献度
 - d. 財団の助成対象としての適合性
- イ. 平成 25 年 2 月 25 日開催の第 4 回選考委員会における合議によって、18 名の助成候補者を選定し、選考委員長は理事長に報告した。
- ウ. 理事長は、同報告にもとづき、平成 25 年 2 月 28 日、助成対象者 18 名を決定し、本人に通知した。(助成額 5,322 万円)

(2) 美術館職員の調査研究に対する助成

① 募集（募集期間、平成 24 年 10 月 1 日～平成 24 年 11 月 12 日）

- ア. 美術館、博物館等約 400 施設に周知方を依頼した。
- イ. 文化機関、画廊等約 70 箇所に周知方を依頼した。
- ウ. 新聞、Web 媒体、美術専門誌約 200 社に募集掲載を依頼した。

② 選考・審査

応募は、27 件であった。

- ア. 次の評価要素等を勘案し、分担審査によって第一段審査、次いで全選考委員によって第二段審査を行った。
 - a. 発想の独創性
 - b. 研修計画の実現性
 - c. 美術界への貢献度
 - d. 美術館充実への貢献度
 - e. 財団の助成対象としての適合性
- イ. 平成 25 年 2 月 25 日開催の第 4 回選考委員会における合議によって、12 件の助成候補者を選定し、選考委員長は理事長に報告した。
- ウ. 理事長は、同報告にもとづき、平成 25 年 2 月 28 日、助成対象者 12 件を決定し、本人に通知した。(助成額 2,019 万円)

(3) 美術に関する国際交流助成

① 募集（募集期間、平成 24 年 10 月 1 日～平成 24 年 11 月 12 日）

- ア. 美術館、大学等約 400 施設に周知方を依頼した。
- イ. 文化機関、画廊等 70 箇所に周知方を依頼した。
- ウ. 新聞、Web 媒体、美術専門誌約 200 社に募集掲載を依頼した。

② 選考・審査

応募は、69 件であった。

- ア. 次の評価要素等を勘案し、分担審査によって第一段審査、次いで全選考委員によって第二段審査を行った。
 - a. 主催者ないし主催団体
 - b. 会議のテーマと実績
 - c. 全体の規模と参加者
 - d. 会議の成果と、その成果の公表方法
- イ. 平成 25 年 2 月 25 日開催の第 4 回選考委員会における合議によって、12 件の助成候補者を選定し、選考委員長は理事長に報告した。
- ウ. 理事長は、同報告にもとづき、平成 25 年 2 月 28 日、助成対象者 12 件を決定し、本人に通知した。（助成額 2,032 万円）

(4) 助成対象者に対する贈呈式・懇親会の開催

平成 25 年 4 月 8 日、ポーラミュージアムアネックス（東京都中央区銀座 1-7-7）において、当財団関係者出席のもと第 18 回助成金贈呈式を開催し、理事長より助成対象者へ目録の贈呈を行った。引続き同ビル内において懇親会を開催した。

2) 美術館事業について

(1) 企画展

- ・平成 25 年 4 月 1 日～7 月 7 日
「開館 10 周年記念 コレクター鈴木常司 美へのまなざし 第Ⅲ期 杉山寧とポーラ美術館の絵画」展開催。
（会期：平成 25 年 3 月 1 日～7 月 7 日）
44,437 人が来館した。
- ・平成 25 年 7 月 13 日～11 月 24 日
ポーラ美術館×国立西洋美術館
「モネ、風景をみる眼 19 世紀フランス風景画の革新」展開催。
100,475 人が来館した。
- ・平成 25 年 12 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
「ルノワール礼讃 ルノワールと 20 世紀の画家たち」展開催。
（会期：平成 25 年 12 月 1 日～平成 26 年 4 月 6 日）
47,430 人が来館した。

(2) 美術館内（講堂、展示室、遊歩道）でのレクチャー（無料）

① 企画展関連

ア. シンポジウム

- ・平成 25 年 4 月 6 日（土）「コレクションと美術館—大原美術館、ブリヂストン美術館、ポーラ美術館の現場から」
（参加 32 名）
講師 柳沢秀行（大原美術館）
新畑泰秀（ブリヂストン美術館）
岩崎余帆子（ポーラ美術館）

イ. 「コレクター鈴木常司」展

- ・平成 25 年 4 月 18 日（土）「ギャラリートーク 勇気の出る絵
（参加 16 名） ルオーとルドン」
講師 ポーラ美術館学芸員 東海林洋
- ・平成 25 年 6 月 15 日（土）「ギャラリートーク 杉山寧 技法と構図」
（参加 22 名） 講師 ポーラ美術館学芸員 内呂博之

ウ. 「モネ、風景をみる眼」展

- ・平成 25 年 10 月 20 日（土）「スペシャルギャラリートーク」
（参加 31 名） 講師 陣岡めぐみ（国立西洋美術館）
- ・平成 25 年 8 月 20 日（火）「ギャラリートーク」
（参加 20 名） 講師 ポーラ美術館学芸員 岩崎余帆子
- ・平成 25 年 9 月 21 日（土）「ギャラリートーク」
（参加 34 名） 講師 ポーラ美術館学芸員 東海林洋
- ・平成 25 年 10 月 19 日（土）「ギャラリートーク」
（参加 28 名） 講師 ポーラ美術館学芸員 岩崎余帆子
- ・平成 25 年 10 月 26 日（土）「対話型ギャラリートーク モネを語る」
（参加 11 名） 講師 ポーラ美術館学芸員
- ・平成 25 年 11 月 14 日（木）「学芸員のイチオシトーク 私の選ぶモネ」
（全 4 回 参加延べ 84 名） 講師 ポーラ美術館学芸員
- ・平成 25 年 11 月 15 日（金）「学芸員のイチオシトーク 私の選ぶモネ」
（全 4 回 参加延べ 111 名） 講師 ポーラ美術館学芸員
- ・平成 25 年 11 月 16 日（土）「スペシャルギャラリートーク
（参加 40 名） モネの変貌—瞬間から主観へ」
講師 喜多崎親（成城大学教授）

エ. 「ルノワール礼讃」展

- ・平成 25 年 12 月 15 日（土）「講演会 ルノワールを訪ねて
（参加 43 名） 梅原龍三郎の青春」
講師 嶋田華子（美術史家）

- ・平成 25 年 12 月 21 日（土）「ギャラリートーク」
（参加 20 名） 講師 ポーラ美術館学芸員 島本英明
- ・平成 26 年 1 月 12 日（日）「第 2 回ギャラリートーク 駅伝」
（全 10 回 参加延べ 358 名） 講師 ポーラ美術館学芸員
- ・平成 26 年 1 月 25 日（土）「ギャラリートーク」
（参加 24 名） 講師 ポーラ美術館学芸員 工藤弘二
- ・平成 26 年 2 月 22 日（土）「ギャラリートーク」
（参加 16 名） 講師 ポーラ美術館学芸員 工藤弘二
- ・平成 26 年 3 月 21 日（金・祝）「ルノワール祭 連続ギャラリートーク」
（参加 26 名） ルノワール 4 つのテーマ「花」
講師 ポーラ美術館学芸員 島本英明
- ・平成 26 年 3 月 21 日（金・祝）「ルノワール祭 連続ギャラリートーク」
（参加 20 名） ルノワール 4 つのテーマ「女性像」
講師 ポーラ美術館学芸員 工藤弘二
- ・平成 26 年 3 月 21 日（金・祝）「ルノワール祭 連続ギャラリートーク」
（参加 25 名） ルノワール 4 つのテーマ「裸婦」
講師 ポーラ美術館学芸員 島本英明
- ・平成 26 年 3 月 21 日（金・祝）「ルノワール祭 連続ギャラリートーク」
（参加 17 名） ルノワール 4 つのテーマ「風景」
講師 ポーラ美術館学芸員 工藤弘二
- ・平成 26 年 3 月 22 日（土）「ルノワール祭 スペシャルギャラリートーク」
（参加 29 名） 20 世紀はルノワールに何をみたのか」
講師 ポーラ美術館学芸員 島本英明
- ・平成 26 年 3 月 23 日（日）「ルノワール祭 クロストーク」
（参加 45 名） そうだったのか ルノワール」
講師 とに～（アート・テラー）
ポーラ美術館学芸員 工藤弘二

②常設展関連

- ・平成 25 年 5 月 3 日（金）トーク・イベント
「彫刻家 青木野枝《雲谷／仙石原》を語る」
（参加 25 名） 講師 青木野枝、三田晴夫（美術ジャーナリスト）
- ・平成 25 年 10 月 28 日（土）「コレクション・トーク」
（参加 16 名） レオナルド・フジター初公開作品を中心に」
講師 ポーラ美術館学芸員 内呂博之
- ・平成 25 年 10 月 5 日（土）「コレクション・トーク ガラス工芸名作選一」
（参加 11 名） エミール・ガレとアール・ヌーヴォーの作家たち」
講師 ポーラ美術館学芸員 工藤弘二

- ・平成 26 年 3 月 22 日（土）「ワークショップ&ギャラリートーク
（参加 5 名） いろいろタッチ&トーク」
講師 ポーラ美術館学芸員 東海林洋
- ・平成 26 年 3 月 23 日（土）「ワークショップ&ギャラリートーク
（参加 19 名） いろいろタッチ&トーク」
講師 ポーラ美術館学芸員 東海林洋

③自然関連

- ・平成 25 年 4 月 28 日（日）「+Nature 自然に親しむプログラム
（計 2 回 参加 40 名） 箱根自然マイスターと歩くポーラ美術館の散歩道」
講師 上妻信夫（箱根ビジターセンター・自然公園指導員）
- ・平成 25 年 5 月 11 日（土）「+Nature 自然に親しむプログラム
（計 2 回 参加 20 名） エコゼミ!自然と生きる美術館の秘密」
講師 ポーラ美術館スタッフ
- ・平成 25 年 5 月 25 日（土）「+Nature 自然に親しむプログラム
（計 2 回 参加 41 名） エコゼミ!自然と生きる美術館の秘密」
講師 ポーラ美術館スタッフ

(3) 美術館外での学芸活動（講演会等）

生涯学習普及活動の一環として、学芸員が他の美術館等において、講演会を行っている。

- ・平成 26 年 1 月 18 日（土）
国立西洋美術館
「モネ、風景をみる眼 19 世紀フランス風景画の革新」展講演会
「ポーラ美術館の印象派とモネの絵画」
講師 ポーラ美術館学芸員 岩崎余帆子
- ・平成 26 年 2 月 6 日（木）
アンスティチュ・フランセ東京 講演会
「ピエール・オーギュスト・ルノワール再考」
講師 ポーラ美術館学芸員 工藤弘二
- ・平成 26 年 2 月 15 日（土）
ブリヂストン美術館土曜講座
「1889 年のオーギュスト・ロダン」
講師 ポーラ美術館学芸員 島本英明

(4) 授業の一環として美術館を利用する際の優遇措置

①小中学生が授業の一環として利用する際の入館料無料（引率教員を含む）

平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月までの利用者数 596 名

- ・平成25年 6月19日（水） 港区立港陽小学校（児童・教員 17名）
- ・平成25年 7月16日（火） 国本小学校（児童・教員 105名）
- ・平成25年 7月20日（土） 函嶺白百合学園中等部（児童・教員 9名）
- ・平成25年 7月22日（月） 二宮町立二宮中学校（児童・教員 20名）
- ・平成25年 7月24日（水） 箱根町立箱根中学校（児童・教員 14名）
- ・平成25年 8月 9日（金） 箱根町立箱根中学校（児童・教員 11名）
- ・平成25年 8月23日（金） 南山高等学校・中学校女子部（児童・教員 27名）
- ・平成25年10月16日（水） 港区立青南小学校（児童・教員 18名）
- ・平成25年10月25日（金） 函嶺白百合学園中等部（児童・教員 35名）
- ・平成25年11月 9日（土） 富士宮市立富士根南中学校（児童・教員 28名）
- ・平成25年12月18日（水） 清泉女学院中学校（児童・教員 190名）
- ・平成26年 3月12日（水） 静岡市立清水第八中学（児童・教員 122名）

②土曜日の小中学生無料（地域に関係なく全国の小中学生を対象）

平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月までの利用者数 1032 名

(5) ワークショップ(参加学習)

① 子どものためのワークショップ

・平成 25 年 8 月 19 日（日）「夏休み子ども美術鑑賞会」

生徒 25 名、保護者 25 名参加。

生徒を少人数の 3 つのグループに分け、学芸員が引率して対話型のギャラリートークを行い、その後、親子対話型のワークを行った。

②学校授業の一環としてのワークショップ

・平成 25 年 7 月 18 日（木） 「静岡理科大学事前レクチャー」

学生 20 名、教員 1 名参加

美術館での鑑賞に向けて、学芸員がレクチャーを行った。

・平成 25 年 8 月 5 日（月） 「静岡理科大学レクチャー」

学生 20 名、教員 1 名参加

学芸員によるモネ展のレクチャー、課題（ワークシート）作成及び発表を行った。

・平成 25 年 7 月 24 日（火） 「町立箱根中学校 鑑賞教室①」

生徒 16 名、教員 1 名参加

モネ展に関するワークシートを作成し発表を行った。

- ・平成 25 年 8 月 9 日（金） 「町立箱根中学校 鑑賞教室②」
生徒 14 名、教員 1 名参加
モネ展に関するワークシートを作成し発表を行った。
- ・平成 25 年 10 月 21 日（月） 「函嶺白百合学園事前授業（出張）」
生徒 39 名、教員 3 名参加
モネについてレクチャーを行った。
- ・平成 25 年 10 月 25 日（金） 「函嶺白百合学園鑑賞授業」
生徒 32 名、教員 3 名参加
「私の庭」に関するワークシートを作成し発表を行った。

（6） 美術館内サービス

①情報コーナー

館内情報コーナーに設置の 5 台のパソコンにて「収蔵品案内」を公開。約 1,100 点の作品の検索が可能。展示に沿った解説、作品の細部まで鑑賞できる高精細画像に加え、画家の制作の背景を紹介した動画が好評。小学校低学年でも操作可能なため、教育効果が高い。

②『小中学生のための鑑賞ガイド』

学芸部の教育普及担当と企画展担当者の連携により、小中学生向けの企画展鑑賞ガイドを製作、入館時に受付で配布している。コンパクトかつ要点をおさえた内容を心がけているが、需要も大きく、子ども向けの普及活動として一定の効果をあげている。

③『「いろどる線」と「かたどる色」 見るガイドブック』

常設展示室での展覧会「いろどる線とかたどる色」（会期：平成 25 年 12 月 1 日～平成 26 年 4 月 6 日）の会場で配布。絵画の素材について分かりやすい図解を添えて、好評であった。

3) その他の事業について

当財団収蔵の美術品を他の展覧会に出品した。（合計 304 点）